

学長からのメッセージ

若い女性研究者たちの夢の実現に向けて —— 本学名誉教授(故)林太郎先生の



Ochanomizu University Library
林 太郎先生



Ochanomizu University Library



Ochanomizu University Library

これまで様々な機会に、お茶の水女子大学が創立以来140年余にわたって、多様な領域で活躍する女性たちを育てて来たこと、そして本学から巣立った人たちが、人々の幸せを願い、教育と学術研究の推進のために、国の内外で貢献していることをお話して来ました。その中で、優れた教育者の育成と並んで、女性研究者の育成も、本学の大きなミッションのひとつであったこと、「日本初の」と冠がつく多くの研究者が本学の優れた先輩たちであることもお話して来ました。今、社会では「女性研究者支援」が声高く謳われ、国からの支援事業も数多く用意されています。しかし、本学における女性研究者支援は、大きな予算が用意されていたわけではありませんが、東京女子高等師範学校の時代から100年近くにわたって実施されて来ました。

今回は、本学の名誉教授の故・林太郎先生が、今から33年も前の1983年から30年にわたって、多くの若い女性研究者たちを励まし、支援して来られた素晴らしい事業があったことをご紹介します。その事業によって、日本中の若手女性研究者たちが助けられ、実績を挙げて、夢を実現してきたことを、本学に在籍する皆さんには、是非、知っておいて頂きたいと思えます。

わが国の女性研究者の現状

わが国の女性研究者の割合は、内閣府「男女共同参画白書2015年度版」によると、年々緩やかに増加してはいるものの、2002年に7.9%であったものが、2014年3月31日現在も僅か14.6%と、きわめて低い値にとどまっています。この数値は諸外国と比べてかなり低く、白書に挙げられているOECD諸国29か国中最下位です。女性研究者の割合が高い上位5カ国は、ポルトガル45.0%、エストニア44.0%、スロバキア42.7%、スペイン38.8%、ポーランド38.3%ですが、科学技術や学術研究の発展を先導してきた英国(6位、37.8%)、米国(15位、33.6%)、ドイツ(24位、26.8%)、フランス(25位、25.6%)における女性研究者の割合が思うほどは高くないことも意外な事実です。でも、日本における割合の低さは、群を抜いていると言って良いでしょう。女性研究者の場合には、実績を挙げなくてはならない時期と出産・育児などの人生のイベントが重なることが多いことから、男性よりも研究業績が少ないことや、研究費の獲得も難しく、上位職への登用もなかなか進まないという傾向にあります。

『2020年30%』の目標

2003年6月20日に「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する」という目標(『2020年30%』の目標)が、男女共同参画推進本部で決定され、その後、この目標達成に向けた様々な施策が進められてきました。私自身も、男女共同参画会議基本問題専門調査会の委員の一人として、男女がともに個性と能力を十分に

発揮できる活力ある社会の構築に向けて女性の多様な能力を活かせるよう、その決定に先立つ2003年4月に、様々な分野へのチャレンジ支援策についての提言「女性のチャレンジ支援について～レッツチャレンジ! 2003 アピール」の取りまとめと発出に関わりました。その中では、多様な分野における現状分析や阻害要因の検討を行って、それぞれに共通する事項や、個別分野ごとに必要な支援策について方向性をまとめましたが、重点分野のひとつとして「女性研究者のチャレンジ支援」を挙げています。

研究分野における女性のチャレンジ支援策

チャレンジ支援策では、研究分野において、特に以下の点が期待・奨励されています

- ① 意欲と能力がある女性研究者が活躍できるよう、政府の審議会等における具体的かつ実効性のある支援策が提言されること
- ② 国公立のみならず民間も含めた研究機関が組織としての目標と具体的計画を自主的に策定して、進捗状況のフォローアップと公表に努めること
- ③ 国において優れた事例を紹介するとともに必要な統計調査に協力すること

そして、第2次男女共同参画基本計画(2005年)及び第3期科学技術基本計画(2006年)に女性研究者の採用目標値が明記され、「女性の参画加速プログラム」(2008年)でも女性研究者支援が重点的に取り組む分野として取り上げられました。

このように、2006年から国の女性研究者支援事業が始まり、これまでの10年間に、文部科学省でも「女性研究者支援モデル育成」「女性研究者研究活動支援事業」「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」などの事業によって、女性研究者支援が進められています。

国が女性研究者の支援事業を開始したこと自体は、嬉しいことではありますが、その事業が開始される23年も前の1983年に、本学名誉教授でいらっしゃる故・林太郎先生が、女性科学者・教育者を育てよう基金を創設されたこと、そして、その基金によって30年にわたって多くの女性たちが力づけられ、それぞれの夢に向かって進むことが出来たことを、皆さんにご紹介します。上にも述べましたが、この基金によって励まされ、優れた業績を挙げてきた研究者は数多く、私自身も、林先生のお心に支えられて、研究と教育を続けてきた一人です。最近、林先生の尊いお志が本学の中でもあまり知られていないことを知り、まことに残念だと思いました。是非、皆さんに知って頂き、林先生のお心を、今後活かして行くべく、努力したいものと思えます。

お心に支えられて



Ochanomizu University Library



公益信託 林女性自然科学者研究助成基金

既に2年半が過ぎましたが、2014年3月8日に「公益信託 林女性自然科学者研究助成基金」の終了記念会が開かれました。その際に私は、初期の受給者であったことから、延べ654名の受給者の代表としてご挨拶をさせていただきました。

この基金は、林太郎先生(1903-1988)が、1979年に愛子夫人が逝去された際に、先生を支え続けた愛子夫人への感謝の想いをご自身が生涯を掛けて来られたお茶の水女子大学の理系女性研究者の育成のために、その研究支援という形で表したいと考えられて、私財を投じて1983年に創設されたものです。最初は毎年2名の女性研究者に授与される形で進められましたが、1988年12月23日に林先生が不慮の事故で亡くなられた後に、先生のご遺志で、東京のご自宅を売却された多額のご遺産をさらにこの基金にご寄附頂くこととなりました。そして林基金は、1990年から、本学関係者のみならず、日本中の数多くの女性自然科学者がそれぞれの夢を叶えるための、大きな支えとなってきたのです。林基金によって励まされた女性研究者は旧体制での7年間に14名、新体制になってからの23年間で延べ640名に及びます。私自身も、林基金のご支援を頂くことができたお蔭もあって、30代の頃から、小さな研究室で学生達と一緒に、独自性の高い研究を遂行して来ることができました。

私が林太郎先生と最初にお目に掛かったのは、1988年度の研究助成基金を授与頂いた折でした。残念ながら、私がお茶の水女子大学に入学する3年前に、既に林先生はご退官していらっしゃったので、林先生のご高名は存じ上げていたものの、直接にお教える頂くことはありませんでした。学生時代にお教えを受けた大槻虎男先生(故人、お茶の水女子大学名誉教授)にご推薦頂いて、85歳になられていた林先生と授与式で初めてお会いしました。その際に、とてもお元氣な先生から、「あなたの研究は、将来性がある優れたものと思います。これからも研究を続けて、実績を挙げて下さい。この助成金が、あなたの研究の発展のために少しでも役に立てば、とても嬉しく思います」と仰って頂きました。授賞式には、大槻先生をはじめ、前田候子先生、瀬野信子先生といったお茶の水女子大学関係の先生方のほかに、井口洋夫先生や林四郎先生など、高名な先生方がご出席下さっ

て、皆様から温かい励ましのお言葉を頂きました。その間、緊張しつつ、これからも一層頑張る、世のため人のために役立つ研究をしようと言う気持ちになったことを覚えています。その際に、林先生のご趣味が絵をお描きになることと伺い、先生が挿絵も描かれたご著書も頂きました。

そんな楽しく嬉しい授与式で、またの御目文字をお約束してお別れしましたが、丁度それから1週間後に、林先生が熱海の海岸に写生に出かけられた際に、不慮の自動車事故で亡くなられたとの連絡が入りました。初めて先生にお会いして、そのお人柄に触れ、これから沢山のことをお教えいただくと考えていましたが、授与式が最初で最後のお目に掛かる機会になってしまったことは、とても悲しく心残りなことでした。ご葬儀には多くのご友人やお弟子さんたちが参列されていて、皆さんが林先生の女子教育への熱いお気持ちについて話されていました。

私はその後、基金の運営委員も務めさせて頂き、長年にわたって、この素晴らしい女性研究者の支援事業に参加させて頂きました。私の教え子の何人かも、林基金のご支援を頂いて、研究を進展させ、現在、大学や民間の研究機関で活躍しています。

33年も前に、林先生が女性科学者・教育者を育てようと、基金を創設された慧眼には、尊敬の念を禁じ得ません。林先生のお心に支えられて、研究と教育に従事してきた女性研究者の一人として、先生への感謝の気持ちを忘れず、その想いを次代につなげて行きたいと、強く思っています。

若い学生さんたちにも、林太郎先生をはじめとする素晴らしい先生方や先輩方が、皆さんを励まし支援して下さいることを知って頂きたいと思います。皆さんがお受けになる奨学金の中にも、そういった方々の尊いお気持ちが込められているものがあります。感謝の気持ちを忘れずに、それぞれの夢の実現に向かって努力して頂くことを、心から願います。

2016年11月
学長 室伏きみ子



Ochanomizu University Library



Ochanomizu University Library



Ochanomizu University Library

学長からのメッセージ